

中西弘樹¹：能登半島にハマナタマメの定着個体を発見

Hiroki NAKANISHI¹：Established individual of *Canavalia lineata* found in the Noto Peninsula, central Japan

ハマナタマメ *Canavalia lineata* (Thunb.) DC. はマメ科ナタマメ属の海岸植物で、日本、台湾、中国に分布する。日本では太平洋側は房総半島南部以西、日本海側は島根半島以西に分布し（中西 1987, 2018）、北限は島根県松江市鹿島町（北緯35°31′）である（Nakanishi 1975）。また、本種は海流散布によって種子が運ばれ、繁殖圏を越えて漂着発芽していることが知られており、京都府（久美浜町教育委員会 1996）、福井県（林 重雄ブログ）、石川県（中西 1980）、山形県（森 1954）、青森県（中西 2016）などで記録されている。しかし、それらの地域では幼個体は発見されているものの、冬期には枯れてしまい、越冬したと思われる個体はこれまで発見されていなかった。2017年9月に能登半島の調査の際、石川県羽咋市で越冬し、定着したと思われるハマナタマメの個体を発見したので記録しておきたい。

生育地および生育状態

生育地は石川県羽咋市柴垣の海岸で（Fig. 1, 北緯36°57′）、内陸側から海岸に出た歩道近くの、人為の影響で海浜植生が破壊され、ギョウギシバがまばらに生育している半安定地の砂地である。近くには同じように漂着種子起源で、15枚の葉をつけたグンバイヒルガオ *Ipomoea pes-caprae* の幼個体も生育していた。この海岸はこれまでもハマナタマメの漂着発芽した個体が発見されている場所である（Nakanishi 1975）。

発見されたハマナタマメの個体は、根元の直径約8mmで、いくつかの節があり、そこから長さ10~15cmの枝を6本伸ばし、合計14枚の本葉をつけていた（Fig. 2）。葉はいずれも小さく、小葉は広楕円形で、長さは3.0~3.5cmであり、かなり小さかった。

考察

発見されたハマナタマメの個体は、その年に発芽した実生個体にしては、根元の茎が太く、また節があること、そこから多くの枝を伸ばしていたことから、地上部が一端枯れて、そこから再び芽を出した個体であり、越冬し、定着している個体と考えられる。葉の大きさが通常よりもかなり小さいのは、生育地が貧栄養と思われる砂浜であり、1株から多くの枝が伸び、栄養不足になっているためと思われる。

今回発見された場所は、これまで知られていた定着個体の生育地からかなり北上したことになる。同じ海流散布植物のグンバイヒルガオが最近になって分布が北上していることが知られており、温暖化の影響と考えられている（中西 2011）。ハマナタマメも分布が北上していると考えられ、今後さらに多くの地点でハマナタマメの定着個体の発見が期待される。

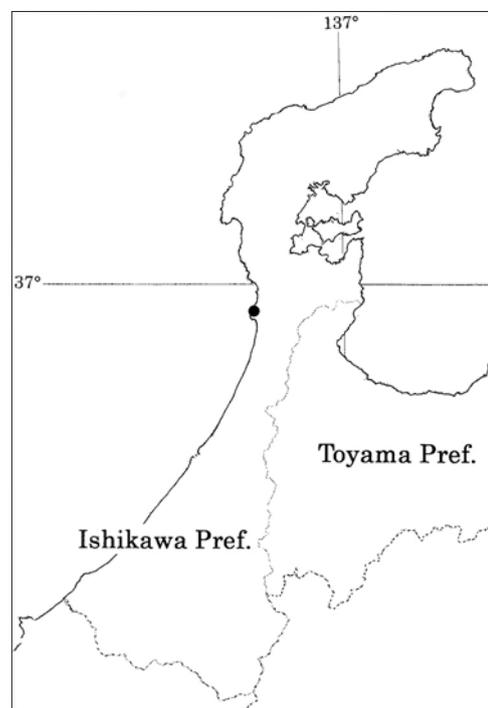


Fig.1 Map showing the locality (●).



Fig.2 *Canavalia lineata* found in the Noto Peninsula.

謝辞：福井県におけるハマナタマメの漂着発芽の情報を教えていただいた林重雄氏にお礼を申し上げます。

引用文献

- 林 重雄ブログ. Beachcomber's Logbook (<http://beachcomb.exblog.jp/>) (2019年3月24日閲覧)
- 久美浜町教育委員会編 1996. 山陰海岸国立公園久美浜海岸砂丘の植物. 89pp., 久美浜町教育委員会, 久美浜町.
- 森 邦彦 1954. 飛島にハマナタマメを得た. 植物研究雑誌 29:159.
- Nakanishi, H. 1975. Notes on the flora of the Chugoku District, Japan (1). Jour. Geobot. 22:58-61.
- 中西弘樹 1980. ハマナタマメを能登で発見. 植物地理・分類研究 28:71
- 中西弘樹 1987. 日本本土におけるグンバイヒルガオとハマナタマメの分布と海流散布. 植物地理・分類研究 35:21-26.
- 中西弘樹 2011. グンバイヒルガオの海流散布の現状とその分布拡大. 植物地理・分類研究 58:89-95.
- 中西弘樹 2016. 青森県にグンバイヒルガオとハマナタマメの漂着発芽の新北限. 漂着物学会誌 14:41.
- 中西弘樹 2018. 日本の海岸植物図鑑. 271pp., トンボ出版, 大阪.

(Received Apr. 2, 2019; accepted May 22, 2019)

¹ 亜熱帯植物研究所 〒851-2130 長崎県西彼杵郡長与町まなび野2丁目29-4

¹ Subtropical Botanical Institute, 2-19-4 Manabino, Nagayo-cho, Nishisonogi-gun, Nagasaki Prefecture 851-2130